



兵協連だより

HYOGO CONSUMERS' CO-OPERATIVE UNION

2023 **1**



JA 丹波ひかみ イチゴ環境制御施設内の様子

JA 丹波ささやま (株)アグリヘルシーファームにて



兵庫 JCC では、協同組合間の相互理解と新たな連携を模索するねらいで2008年から「協同組合研究・交流会」を開催しています。今年度は兵庫県農業協同組合中央会が担当で『丹波地域の農業』をテーマに11月29日、①丹波市を事業エリアとする JA 丹波ひかみ ②丹波篠山市を事業エリアとする JA 丹波ささやまの2つの農協を巡り、ブランドを生かした取り組みや新規就農事業者の取り組みについて学習しました。(関連ページ p15)





兵庫県生活協同組合連合会
会長理事

岩山 利久

(いわやま・としひさ)

変化の常態化

2023年、明けましておめでとう
ございます。年頭にあたり、会員並び
に関係団体の皆さまのご健勝とご多幸
をお祈り申し上げます。2020年か
ら続く新型コロナウイルスとの闘いは、
未だ終息したと宣言できる状況ではあ
りません。しかし、一方では共生する
ステージに入ったと理解し行動するこ
とが昨年以上に求められますので、多
くの知恵を寄せ合い協力の力でコロナ
禍を乗り越えましょう。

さて、「新型コロナウイルス」と同
様に「SDGs」の言葉は、見たり聞
いたりしない日がないほど私たちに浸
透しています。SDGsは、誰もが安
心して暮らしていけるより良い社会を
作ろうと、目標達成時期を2030年
に置いてスタートしました。協同組合
にとっても次世代に向けた重要課題と
して、多くの皆さんと協力し積極的に
取り組みを進めてきました。しかし、
ロシアによるウクライナ侵攻で「平和
の危機や食糧危機」などの問題が顕在
化し、SDGsの目標達成時期だけで
なく取組みも大きく後退したと言われ
ています。このような状況下で私たち

は何をすべきか、2023年は再確認
含め「検討と実行」が求められる一年
だと考えます。

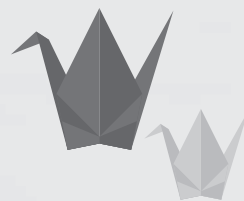
今年の干支は「兎（ウサギ）」です。
ウサギはおとなしく穏やかなイメージ
があります。このことから、安全の象
徴としての意味を持っていると言われ
ています。また、ウサギの特徴と言え
ば跳躍力です。その視点から、飛躍や
向上という意味も込められているそう
です。そのことを踏まえて、今年が安
全を大切にしながらも「行動目標や成
果」は、少し背伸びをしてはどうでし
ょうか。そのために、「行動を変える考
え方を変える」など、小さな変化を繰
り返す「変化の常態化」が必要となり
ます。30年間続いたデフレからインフ
レに変わった今だからこそ、「変化の
常態化」の言葉を浸透させ飛躍につな
げましょう。

最後になりますが、今年も会員およ
び関係団体の皆さまと共に、兵庫県内
の協同組合の発展に向け努力していま
いますので、引き続き温かいご支援と
ご協力をよろしくお願い致します。

CONTENTS

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 2. 想点 | 16. 保健・医療・福祉研究会 開催報告/
初級経理学校案内 |
| 3. 会員生協・団体：今年の抱負 | 17. 災害対策委員会 開催報告/第4回理事会報告 |
| 13. 会員生協・団体：今年の抱負/
医療生協部会 開催報告 | 18. 協同組合のかけ橋 |
| 14. 共済生協部会/大学生協部会 開催報告 | 19. 兵庫県のページ/ヨッシーの窓 |
| 15. 兵庫JCC「協同組合研究・交流会」開催報告 | 20. 2022年度 フェニックス共済お知らせ/
学習会ご案内/県連行事予定/編集後記 |

2023年 今年の抱負



自分育て、地域育て、生協育て



生活協同組合コープこうべ
常務理事

中川 寿子
(なかがわ・ひさこ)

あけましておめでとうございます。

昨年は、ロシアによるウクライナ侵攻によって国際秩序が大きく揺らぎ、世界経済も大混乱におちいった1年でした。コロナで傷んだ組合員のくらしは、さらに厳しいものになっています。

そのようななか、コープこうべの組合員が進めてきた「てまごり」が新語・流行語大賞2022トップ10に選ばれたのは、大変うれしい出来事でした。この取り組みは、2016年に組合員が自発的に始めた学習・実践活動「e買うプロジェクト」がルーツ。わずか7年前ではありますが、当時は「少しでも日付を新しいものを選ぶ」のをよしとする人が多かったと思います。その後神戸市との協働プロジェクトに発展し、注目を集めたことで、全国に広がっていったものです。

コープこうべには「自分育て、地域育て、生協育て」という言葉があります。「学習によって自分のくらしを改善し、それを伝えていくことで地域社会を豊かにし、生協への共感・信頼につながる」という意味がこめられています。

世界は複雑になり、不条理な事件は後を絶ちません。しかし、こんな時代だからこそ「食べることを大切に、助け合って生きる」という生協の原点に立ち返り、「協同」の価値を伝えていきたいと思います。

危機に立ち向かい、

未来をひらく生協運動を



生活クラブ生活協同組合
都市生活
専務理事

角田 学
(すみだ・まなぶ)

あけましておめでとうございます。

3回目となるコロナ禍の中の新年、さらにロシアによるウクライナ侵攻を契機とする「暮らし」と「平和」の危機の中、これまで以上に想像力をもって世界の人々とながら、危機に立ち向かう生協運動が求められています。悲観することなく、未来を信じ、生協運動の持つ普遍的価値を日々の実践の中で地域に示していくことに真剣に取り組む生活クラブ生協でありたいと思います。

6月の総代会提案に向けて、策定中の第3次中期計画(2023-2027年)では、「つながるローカルSDGs」をキーワードに、10支部の活動を活性化し、各地域のF(食)、E(エネルギー・環境)、C(ケア・福祉)の課題に対して、地域の一員として主体的にかかわっていくことを目指しています。「Z世代云々」という世代論にとらわれず、多様な年代・価値観・生活スタイルを持つ人々を、大きくつないでいくことのできる生協運動を創り出したいと思います。

皆様とともに、平和で持続可能な社会の実現に向け、協同組合のつながる力で未来をひらくことに努力してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いたします。



生活協同組合
コープ自然派兵庫
専務理事

横川 誠也

(よこがわ・せいや)

持続可能な社会を目指して

あけましておめでとうございます。

ロシアとウクライナ間の武力紛争では、各国のロシアとの対立によって、食料・エネルギーの国際価格を高騰させ、国際社会の動揺・混乱をもたらしています。また、国内でも物価上昇を生み、原発の再稼働や運転延長、新增設も含む推進、増税による防衛費増額を目指す結果となりました。相対的貧困率も高まり深刻な状況になりつつあります。本年は、食料安全保障を目的に、主食農産物を中心に国産オーガニックプロジェクトをさらに進化させていきます。また、地域のニーズに対応した事業にさまざまな就労のスタイルで組合員が参加できるワークショップや労働者協働組合の取り組みにも注力し、地域の福祉の向上、社会連帯経済の促進につなげたいと思います。協働組合の思想を基に、未来の子どもたちに希望のある社会を残すことができるように、地域で連帯し、持続可能な社会の実現を目指して行動したいと思います。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。



生活協同組合連合会
コープ自然派事業連合
代表理事 理事長

岸 健二

(きし・けんじ)

コープ自然派から 国産オーガニックを拡げる

あけましておめでとうございます。

ロシアのウクライナ侵攻以降、世界の状況が一変しました。食料・エネルギーの禁輸、国際価格の高騰は、国際社会の動揺・混乱をもたらしています。そして日本の食料危機ははじまっています。飼料価格の高騰は畜産業の継続が、またリンやカリなど化学肥料の輸入不足は日本農業の存続が危ぶまれる事態に至りつつあります。日本は、これまで通り自動車など工業製品を売って、食料・エネルギーを海外から買うことはできなくなりました。

今後、地球温暖化がすすむと、世界の食料生産の条件はさらに悪化する一方で、人口爆発により需要は増加し、食料需給は逼迫すると考えます。私たちが誰にも飢えないためには、食料生産の本格的な国内シフトが必須です。そのために地域循環を基本とした有機農業が必要となります。農水省もみどりの食料システム戦略(有機農業の取組面積25%、100万ha)を法制化、有機農業を推進することになりました。

いよいよ有機農業の時代がはじまります。コープ自然派から「国産オーガニック」を拡げ、日本オーガニックの市場形成をめざしたいと思います。今年もよろしく申し上げます。



西宮市職員生活協同組合
事務局長

山田 博貴

(やまだ・ひろたか)

新年の抱負

新年あけましておめでとうございます。

当生協は、兵庫県下唯一の市役所生協として、組合員である西宮市職員への福利厚生のため、サービスの提供に努めています。

当生協におきましても、令和3年度から4年度にかけて、新型コロナウイルス感染症の大規模な流行が続く影響を受けながら、厳しい運営に努めてまいりました。

令和3年度につきましては、令和2年度のコロナ対策商品の特需がひと段落したことや、例年好評であった、さくらんぼ・さんま等が不作・不漁により、高は減となりました。令和4年度につきましては、市キャラクターの「みやたん」がデザインされたポロシャツ等のあっせん雑貨品の売り上げや、映画館の入場規制緩和によりチケット類の供給高は前年度と比較して伸びたものの、令和3年度に市政ニュースで大規模な広告をしたことにより大幅増となった緊急告知ラジオの供給高が、反動で大幅に減した点と等により、全体として前年同期比で供給高は減となっております。本年も様々な事業に取り組みるよう、市の関係部局や互助会との連携をさらに深め、存在意義を高めていく努力を行ってまいりますので、ご指導とご支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。

生協の事業・活動の真価が問われる年



神戸大学生協同組合
専務理事

坂本 安弘

(さかもと・やすひろ)

新年明けましておめでとうございます。
いよいよ本格的なWithコロナの時代を迎え、これまでのような言い訳が通用せず、大学生協の真価が求められる年です。また2023年、大学生協のシステムが大きく変わります。タブレット型のレジ、スマホでの決済、そしてWeb(Cloud)ベースの基幹システムへと、全てが新しくなります。Withコロナ、システム変更、試行錯誤ではありませんが、組合員のキャンパスライフの向上に貢献したいと思います。3年間におよぶコロナ禍の中、規制や制限が徐々に緩和され、学生の行動範囲も広がっています。ただ、この空白とも言える時間は、組合員のキャンパスライフに暗い影を落としたのではと感じています。特に2020年に入学された学生は4年生となります。残り少ない大学生活を如何に有意義に過ごして頂くか。大学生協としても、大きな課題です。何か楽しい思い出を1つでも多く作ることができればと。そのお手伝いを何かできないか、真摯に考えたいと思います。今年の干支は癸卯。これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になると考えられています。これまでの経営再建に向けての取り組みが報われる年になることを願います。

2023年度へ向けて



関西学院大学生協同組合/
大手前大学生協同組合
専務理事

斉藤 和久

(さいとう・かずひさ)

新年あけましておめでとうございます。旧年中はひとかたならぬご高配にあずかりまして誠にありがとうございました。私事ではございますが、専務理事を拝命してから初めての新年を迎え、2023年度へ向けてよりいっそう引き締まる思いしております。
さて、なかなか落ち着きを見せないコロナ情勢ですが、昨年は約2年ぶりに大学生が学内に戻ってきて、いふふと大学らしい活気あふれるキャンパス風景を見ることができました。一方で大学生の日常生活には大きな変化がいくつも起こっており、授業やサークル等のミーティングがオンラインと併用になったり、食事を少人数で静かに食べるようになってきたり、大学生協としてどこまでこの変化に対応できているのか自問自答する時もあります。
2023年度もとにかく自問自答を続けながら、ただただ前進していく所存であります。本年も皆様からご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新年の抱負



神戸市外国語大学
消費生活協同組合
専務理事

中尾 太樹

(なかお・たいき)

新年あけましておめでとうございます。
昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年でしたが、ようやく、少しずつ落ち着きを取り戻しつつあります。
ただ、大学生協の置かれた大学内という環境下では、オンライン授業と、対面授業が併用されるかたちでの講義が部分的に残り、学内の学生組合員の人口は、未だにコロナ前には回復していません。
物価高騰、円安の影響も受け、大学で学ぶ大学生にとっても厳しい状況が続いております。特に在学中に留学を希望する学生の多い、神戸市外国語大学では、この円安による留学費用の高騰は、非常に厳しい状況です。
そのような中で、兵庫JCC様、コープこうべ様、兵庫県様からのご支援による、地産地消の「ひょうごまるごと井」の提供は、大学生への有り難い支援となり、うれしそうに頬張る大学生のたくましい姿に、我々も勇気づけられました。
これをきっかけに、厳しい状況に置かれている大学生のために、そして大学のために、厳しい状況にある大学生協に何ができるのか、あらためて自問自答を繰り返しております。
目先の運営に足を取られる日々が続くなかではあります。組合員の力を借りながら、この難題に取り組んでいきたいと思っております。
引き続き、皆様のご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



甲南大学生協同組合
専務理事

内田 真紀子
(うちだ・まきこ)

2023年を迎えるにあたって

新年あけましておめでとうございます。2022年度は新型コロナウイルスも少し落ち着きを見せて、キャンパスには一定の学生が戻ってくるようになりました。ただ、新しい生活様式の中で、感染症対策を講じながらのサービス提供はまだまだ制限があり、店舗の利用状況は大変厳しいものでした。

生協としても新型コロナウイルスによって大きく変わった学生のライフスタイルに沿って活動を行い、止まっていた時間を取り戻すために必死にもがいた一年でした。

様々な苦難がある中でも、学生を中心とした新学期活動が年々盛り上がっています。自分たちが感じた不安を希望に変えられるようにと、前向きに新入生を迎える準備をしている姿に日々、励まされています。また、一昨年から協同組合連携の中でご支援をいただいた食事の提供は、学生の笑顔を見ることができ、地産地消などの学びにも繋がっています。改めて皆様のご支援に感謝いたします。

大学自体が大きく変革を遂げようとしている中で、生協も今の組合員の声をしっかりと捉え、共に未来を創っていくために、新しい事業も始めたことで、大学とともに前へ前へと歩みを進めていく所存でございます。

本年もご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



兵庫県立大学生協同組合
専務理事

末松 泰信
(すえまつ・やすのぶ)

2023年を迎えるにあたって

新年あけましておめでとうございます。

兵庫県立大学では、対面授業が順次再開されるにつれ、キャンパスに活気が戻ってきました。

ただ、授業以外の目的で滞留する学生が少なくことから、生協の利用が感染症前の60%程度と、苦しい経営状況が続きますが、安心安全・暮らしを守る理念を忘れず、邁進していく所存です。

学生実態の例として、下宿生の場合、アルバイト収入が月平均5千円減り、食費は100円減じた1日800円を超える程度で暮らしていて、約半数がオンライン授業でいいと考えていて、無気力・孤独を感じる人が3人に1人であるといった数字がネット上で上がっています。我々に出ることは、「ひょうごまるごと井(地産地消格安井)」の提供など、特に「食」への経済的支援によって今を切り抜け、「ずっといたい」と思える課外組織や場所などの環境を復興させることで、本来あるべきキャンパスの姿に戻すことと捉えています。どうか、多方面から、引き続きのご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

さて、1年巡るがとても早く感じるようになりました。リモートワークが多くなるとメリハリがなく充足感がないことからくる錯覚だそうです。3年ぶりに学生と合宿をする機会ができて、皆は大はしゃぎ、その最中「専務、難しい顔してるよ」と言われ、実は元気を失っていたのは私の方だった、ということに気づかされました。ハタチ前後の若者は元気で逞しいです。



神戸薬科大学生協同組合
専務理事

内田 真紀子
(うちだ・まきこ)

新年の抱負

新年あけましておめでとうございます。2022年度は新型コロナウイルスによる制限も徐々に緩和をしてまいりましたが、神戸薬科大学では薬剤師になるための実習を行い、国家試験受験に繋げていく義務があるため、大学との協力のもと、店舗運営時にはより強力な予防対策を講じて対応を続けています。

少しずつ登校が増えてきた学生組合員の日々の楽しみを作るため、生協店舗では様々な企画を行ったリ、キッチンカーの試験的導入など、大学に来ることで楽しんでもらえることを取り組んでまいりました。その中でひょうごJCC様、兵庫県からのご支援は大変有難く、学生組合員の大きな癒しとなりました。本当に有難うございました。

事業としてはまだまだ厳しい状況が続いておりますが、学生・教職員と生協職員が顔の見える関係として、個別にご意見を聞くことができるのが、薬大生協のいいところでもあります。

組合員一人一人の声をとらえ、必要なことへの対応や期待に応えることで「自分の大学に生協があつて良かった」と感じていただけるよう努力をし続ける所存でございます。

本年もご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

キャンパスに元気を



神戸親和女子大学
生活協同組合
専務理事

坂本 安弘

(さかもと・やすひろ)

新年明けましておめでとうございます。

神戸親和女子大学は、本年4月より男女共学となり、名称も神戸親和大学に変わります。当生協も5月に予定しています総代会にて、神戸親和大学生協へと名称変更を予定しています。そのこともあり昨年より、男子学生への対応で奔走しています。食堂のメニュー（Lサイズの設定や食器の準備）、男子学生も購入し易い商品の取り扱い等、楽しい様でなかなか難しいです。他大学生協のお力をお借りし、より良い店舗になるように尽力する所存です。一方で18歳人口の減少により、入学者数が減少しています。また、オンライン授業もまだまだ多く、以前ほどキャンパスに学生が滞留していません。これまでも組合員に元気を頂き、いろいろな難局を越えてきました。今度は生協の元気を、組合員に与えることができたいと思います。男女共学となることで、キャンパスに活気が戻ることを期待しています。

小さな大学生協ではありますが、2023年も職員一丸となって頑張ります。

本年も何卒よろしくお願ひ致します。

2023年を迎えて



園田学園女子大学
生活協同組合
専務理事

大西 範和

(おおにし・のりかず)

新年あけましておめでとうございます。

2020年度から続いている新型コロナウイルス感染症の影響も、対応策が確立していくにつれ、少しずつ落ち着きを見せられました。2022年4月からは対面授業が基本となり、コロナ前のようにはありませんが、徐々にキャンパスに学生が戻ってきています。

昨年は、新たな取組みとして体育会系クラブの下宿生に朝食と夕食の提供を開始しました。担当スタッフは朝、午前5時半出勤、夜は午後9時半ごろまでの勤務となり、大変になりましたが、利用してくれている組合員のために、とがんばって来ています。また、秋には3年ぶりに大学祭が開催され、生協からも模擬店を出店し、大学オリジナルグッズの販売や、カツカレーなどメニューの提供を行い、大学祭を盛り上げることに貢献できたのではないかと思います。このように少しずつ活動の幅も広がることができました。2023年はレジをはじめとして、大学生協が使用するシステムが大きく変わります。コロナ禍とも重なり、準備は困難でしたが、専用アプリでスマホ決済いただけるようになるなど、組合員のみならずには便利になります。ただ、スタッフ側は新たに覚えなければならぬことが増大しています。早くこのシステムに慣れ、便利にそして効率的に運営ができるようにし、経営再建に向け、さらに進めていきたいと考えています。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

2023年を迎えて



甲南女子大学生生活協同組合
専務理事

金保 吉郎

(かなほ・よしろう)

新年あけましておめでとうございます。

昨年2021年度に続き、なかなか厳しい1年でした。オンライン授業から対面授業への切り替えも増え、少しずつではありますが、学内にも活気が出てきました。しかしながら、店舗を利用する学生組合員の数は元の状態には戻らず、まだまだ本格的な回復には至りませんでした。

そのような中でも引き続き、コロナ禍以前に行っていた人気企画を復活させるなど、学生組合員にキャンパスライフを楽しく過ごしていただくためにさまざまな企画を行いました。

大学内のゼミと一緒に産学連携イベントといった取り組みも行いました。イベントを一緒に取り組んだ学生組合員の楽しそうな顔を見て、こちらも元気をもらいました。

また、オープンキャンパスでのランチ体験や100円朝食などコロナ以前に大学と協力して行っていたイベントなども復活してきました。

2023年もしっかりと組合員目線で生協の事業を行い、学生組合員をサポートできるようにしたいと思います。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



神戸市立工業高等専門学校
生活協同組合
専務理事

寺田 雅裕
(てらだ・まさひろ)

2023年を迎えて

明けましておめでとうございます。旧年は大変お世話になりました。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、2019年から猛威を振るっていた新型コロナウイルスの感染状況が一旦落ち着きを見せ始め、世間は日常を取り戻しつつあります。まだまだ気は抜けませんが、このまま終息に向かうことを願っております。

当組合の近況ですが、職域である神戸高専が対面授業を再開したことに伴い、ほぼ通常の体制で運営をしております。店舗利用の面では、コロナ禍前とはいきませんが、概ね8割〜9割程度、組合員のご利用が戻っています。ただ、コスト増による剰余の減少など、事業環境の悪化により経営としては年々難しい状況になりつつあります。

厳しい状況ではありますが、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた本校の学生に寄り添っていかれるよう、勉強面でも生活面でもサポートを続けていければと考えております。そのために職員と力を合わせて尽力してまいりたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



生活協同組合連合会
大学生協事業連合
常務理事(関西北陸地区担当)

野尻 郁智
(のじり・ふみとも)

新年を迎え、あらたな環境に対応した 事業構築を進めます

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

兵庫県生活協同組合連合会の会員生協の皆様におかれましては、弊会の諸活動にご協力いただきましてありがとうございます。また大学生支援活動においては多大なご尽力をいただきましたことにあためて御礼申し上げます。

令和4年はコロナとの向き合い方が大きく変化をした年でした。4月当初は大学に登校される学生組合員も不安をいだきながらのキャンパスライフでしたが、後半はコロナと上手に向き合う生活に変化していきました。学生の登校数の増加に伴い大学生協の事業も大きく改善が進みました。しかし、商品調達の高騰による事業の足枷や、経営においては時給単価の上昇、電気代の高騰などが大きな経営課題となっております。会員生協の皆様と連携したあらたな経営構造の構築を進めたいと考えています。

令和5年のキーワードは、「学生にとって楽しいキャンパスライフの提案」だと考えています。講義に登校するだけでなく、課外活動の活性化など学生のキャンパスライフが充実することで生協に集う学生も増えてくると考えています。大学生協からも学生・大学に積極に提案していくことが求められている時代だと感じています。

皆様におきまして、この新しい年がより豊かな年でありますよう心から祈念いたしました。私からの新年のご挨拶とさせていただきます。



神戸医療生活協同組合
理事長

道上 哲也
(みちがみ・てつや)

2023年を迎えて

新年おめでとうございます。

新型コロナウイルスの感染拡大の波が繰り返すたび、わたしたちは社会や人とのつながりで生きていくことを実感させられます。コロナ禍の影響があっても人と人とのつながりを大切にする協同組合の力を発揮できるように「事業と運動」にとりくんできました。

昨年2月にロシアによるウクライナ侵略がはじまり、何も罪もない市民・子どもの命が奪われる辛い事態となっています。どのような理由があっても戦争には絶対反対の立場を鮮明にし、「国際的紛争は武力でなく平和的手段で解決する」ことを精神としている憲法九条を守っていくことが、ますます重要です。

わたしたちの課題はたくさんありますが、今年も健康に留意しながら、組合員・職員が協同し「事業と運動」をすすめる、前進していきたいと考えています。

本年が皆様にとって充実した、よい年であることを祈念し、新年のご挨拶とします。今年もよろしくお願ひします。

協同組合間連携を強め、

共に発展していく年に



尼崎医療生活協同組合
専務理事

瀬井 宏幸
(せい・ひろゆき)

明けましておめでとうございます。2022年度も新型コロナウイルスへの対応に追われた一年となりました。2023年以降も感染症への対応は続いていくものと思われませんが、徐々に通常の事業運営に戻っていくだろうと想定しています。この3年、支部や班、サークル活動などは止めずに継続してきましたが、それでも活動量は大きく減少し、組合員のつながりは後退しています。新しく定着したウェブでのつながりも活用し、地域住民の皆さんも含めて、つながりの場をたくさんつくっていきたくと考えています。そもそも新型コロナウイルス感染症の広がりや、人間社会がつくりだした営利優先の経済活動や乱開発の結果とも言われています。極端な富の集中や深刻な環境問題を考えると、何らかの方向転換が必要と警鐘を鳴らされているのかもしれない。営利の追求ではなく、非営利組織として存在し、大きく発展してきた協同組合に期待がかかっているのではないのでしょうか。協同組合運動を広げていくうえで兵協連は大変ありがたい存在です。多くの協同組合の皆さんと連携関係を強め、共に発展していく年にしたいと思います。本年もよろしくお願致します。

顔の見える生協を目指して



阪神医療生活協同組合
専務理事

蓮見 克也
(はすみ・かつや)

新年明けましておめでとうございます。今年も皆様と無事に新年を迎えられた事に感謝致します。さて新型コロナウイルスとの付き合いも3年目に突入し、事業も組合員活動も制限をさながらも、前に進めております。マスクを付けている顔が標準になってきており、未だにマスクなしの顔を拝見していない方も増えてきました。益々格差も開き、日本の労働生産性の低さやファイナンス知識の脆弱さ、ITインフラ、コンプライアンス等、厳しく指摘されています。もちろん社会に流れに対応し、組織運営を円滑に進めていく事は大事ですが、社会的弱者がより情報弱者になりつつある中で、生協として何が出来るのかを考えて行く年になりたいと思っています。私個人としても、メール、LINEなどのSNSがないと仕事立ち行かなくなっておりますが、地域はデジタルでは出来ていません。顔が見え、生活が見え、つながりが見える地域にしていきたいにも、定期的な組合員訪問や、ニュースの手配り、また補助的ツールとしてのLINE活用などで、アナログという温もりを維持していくためのデジタルツールという役割が大事だと思います。そのために、よりアナログ活動を展開していく年にしていきます。本年もご指導の程よろしくお願致します。

住み慣れたまちでその人らしく



宝塚医療生活協同組合
理事長

砂盛 光偉
(すなもり・みつひ)

新年 あけまして おめでとうございます。昨年、宝塚医療生活協同組合は、生協創立50周年式典を9月18日ソリオホールで宝塚市長をはじめ、145人の方々にご列席頂き開催することができました。感染対策禍での式典は、参加人数を含め様々な制限下での開催でしたが、コミュニティ・交流の場の大切さを実感するものとなりました。メイנסローガンは、「未来へのバトン」、50年の歩みを関係者へのインタビューを通して振り返り、地域の方々との深く寄り添う生協組織としての原点を見直す記念祝賀会となりました。人口動態から2035年には85歳以上が1千万超・50%超が介護を必要とする社会が迫り来ようとしています。「ケアは社会のインフラであり基盤であって、ケアする能力が社会から失われたら、社会は崩壊します」(J・C・トロント米・政治学者・同志社大学|岡野教授)と、警鐘も発信されています。「ケアと多様性を大切に作る社会」に、医療、介護・福祉事業を通して貢献できる歩みをこれからも紡いでいきたいと思っています。年頭にあたり、「住み慣れたまちでその人らしくいききたい」という願いに込める「未来へのバトン」を大切な視点とすることを申し上げ、挨拶の結びとします。



姫路医療生活協同組合
専務理事

黒岩 勝博
(くろいわ・かつひろ)

事業を通じた社会貢献

新年明けましておめでとうございます。

昨年は12月に共立病院建て替え事業が着工し、2023年12月オープンに向け、本格的に建設工事が始まりました。新病院は全床地域包括ケア病床48床の病院で、「かかりつけ医機能」と「在宅サービス」を重視し、「介護と医療の一体的サービス」提供をおこなうことで、組合員や地域住民の在宅ニーズにお応えします。介護分野では、福祉用具レンタルあぼしを新規開設しました。

今年、組合員と職員の協力の力で組合員増やし、出資金増やし、組合員と事業所のネットワークづくり等で組織強化をはかり、利用者増をすすめる中で、共立病院建て替えリニューアルという大事業を成功させたいと考えています。介護分野では、4月に姫路市から白鷺・琴陵地域包括支援センターの新規委託を受けることで、該当エリアにおける組合員・地域住民の「総合相談窓口」の役割を新たに担うこととなります。

今後も「事業を通じた社会貢献」をすすめてまいります。本年もよろしくお願いたします。



ろっこう医療生活協同組合
理事長

小西 達也
(こにし・たつや)

初心忘るべからず

この言葉は、「初めの志を忘れてはならない」という意味で使われていますが、新春能の鑑賞をきっかけに調べてみますと、世阿弥が「風姿花伝」で論じている初心とは、新しい事態に直面した時の対処方法のことで、「初心を忘れるな」とは、人生の試練の時に、どうやってその試練を乗り越えていったのかという経験を忘れてはいけないということである、と記されています。

私は東雲診療所で診療していますが、2000年に始まった診療所の建設運動は、私を含む担当スタッフにとって試練でした。しかし、同時進行で、多くの組合員さんの尽力は素晴らしいものでした。紹介カードを手に、来る日も来る日も地域を歩いたり、出資金集めに奔走したり、新しい班会を立ち上げたり、さまざまな運動がありました。その姿に力をもらい、また医療生協の多くの先例から学んで、医療生協らしい診療所と通所リハのシステムができていきました。

開所後は、私が元々診療していた灘区から多くの組合員が中央区の春日野道まで通院してくれました。また、書道や生け花の教室、食事会、歩こう会、体操教室などのサークル活動の立ち上げにも多くの組合員さんが奮闘されました。現在コロナ禍という試練の最中ではありますが、2020年のろっこう医療生協40周年には全支部と事業所をつなぐZoomイベントを開催し記念誌を刊行、さらに昨年には、対面開催の2会場をオンラインでつなぐ「健康づくり講座」と、六甲道診療所30周年ウォークイベントを開催し、久しぶりに多くの組合員と職員が対面で集まりました。「フレイル予防」「認知症予防」「すこしお」を3つの柱とするけんこうクラブ活動と医療福祉生協らしい活動であり組合員拡大の源泉でもある「まちかど健康チェック」も再開できました。初心忘るべからず。新しい事態に直面した時の対処方法は、組合員と職員の協同でした。

新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の波が繰り返されながらも、ワクチン接種や感染対策等により徐々に従来の組合員活動が戻りつつあることを実感する年となりました。新所長の下で診療所体制が安定し、法人として2年間続いていた赤字経営から脱却できました。

ある日、組合員から「組合を脱退したいので出資金を返してほしい」という電話がありました。本当は組合を抜きたいわけではないが、年金だけでは生活が苦しいためすぐに現金がほしい、とのことでした。高齢者の置かれている厳しい現実を目の当たりにしました。年金支給額の減額に加えて物価の大幅な上昇等が、社会的弱者に大きなダメージを与えています。

少子高齢化や人口減少の著しい当地域において、組合員の暮らしを支えていくためには、社会保障の充実が必須です。公共交通の縮小が進み、受診の移動手段の確保も大きな課題です。事業と運動の両側面での取り組みが求められています。組合員と共に公助拡充の運動を強化していきます。そして、住みなれた地域で安心して住みつけられるよう、地域包括ケアのさらなる推進を図っていききたいと思っております。

今年もよろしくお願いたします。



たじま医療生活協同組合
専務理事

松本 幹雄
(まつもと・みきお)

コロナ後遺症に取り組みます



ひまわり医療生活協同組合
副理事長

三橋 徹

(みつはし・とおる)

新年を迎え、貴生協の活動にあらためて感謝と敬意を表します。

昨年はこの寄稿に「心があたたかくなる年」と題をつけましたが、実に「人々を苦しめる戦争をしてはいけない」とくり返し思う1年でした。加えて2019年末から世界中に拡がり多くの感染者、死者を出してきた新型コロナウイルス感染症も、変異をくり返し3年経った今も猛威をふるっています。そして、症状のない感染者も20%近くいること、ワクチンは重症化を防ぐが感染を予防する働きは早く低下してしまうことが、感染拡大防止を困難にしています。

現在流行しているオミクロン株は、重症化は少ないが速く感染してしまうため、感染を経験された人・職場も多いのではないのでしょうか。そして、1週間の療養期間を終えても、咳、倦怠感、胸の痛み、頭がはつきりしないブレインフォグなど遷延症状に苦しむ人が多く、仕事や生活に支障をきたすことも社会問題になっています。

私たちひまわり医療生協の田島診療所では、システマティックにツボを押す新経絡治療を行ってきましたが、経験した中ではこれらの新型コロナウイルス遷延症状にも有効なため、より多くの人に治療を行う準備をしています。

紹介等ご支援をお願いできれば幸いです。

新年おめでとうございませう



神戸市民生活協同組合
専務理事

菅原 隆喜

(すがはら・りゅうき)

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。新たな年がスタートしました。二〇二〇年一月に最初のコロナ感染者が確認されたから、まもなく三年が経過しようとしています。収束はまだ見えませんが、今年こそ、アフターコロナの時代を迎えて平穏な新たな社会になることを願っています。さて、年が変わりますと次は年度末が見えてきます。ご承知のとおり日本の年度末は四月始まりです。実はこの年明けから年度始めの時期、日本国内は全国的にリスクが高まります。というのは、この節目の前後に全国の多くの業界で一斉に人事異動、熟練者の退職、新システム稼働、新規事業スタート、といったことが行われます。そこに潜むインシデント（事故に繋がりがかねない出来事、異変、危機）は、いかほどのものがあるでしょうか。

多くの重大事故は小さな人為的ミスがトリガーとなって発生しています。未熟なままの操作技術、不十分な引継ぎや確認漏れ、不測事態の未経験といったことが、社会を揺るがす重大な事態へと繋がっていきます。事実、過去を遡れば鉄道事故、長距離バス事故、大手銀行システム停止、携帯電話大規模通信障害、化学プラント暴走、大規模火災、建設現場事故など枚挙に暇がありません。

こうしたリスクに対応するために保険や共済があるわけですが、事故や労働災害が起きないことに越したことはありません。感染症第八波のみならず、この時期の重大事故防止を願ってやみません。

共済の原点を見つめ



尼崎市民共済
生活協同組合
理事長

河本 博志

(かわもと・ひろし)

新年あけましておめでとうございます。昨年、尼崎市民共済においては、組織の「係」制を「担当」制に改めるとともに、交通等傷害共済に賠償責任補償特約付交通事故傷害保険を組み合わせた「あんしんセット」の取扱いを開始するなど、概ね順調な業務展開が出来ました。

しかし、社会状況を顧みますと、2月にはロシアによるウクライナ侵略が始まり、7月には安倍元総理が銃弾に倒れる中、エネルギー不足による電気代やガソリンの高騰、円安による物価高などに加え世界的な食糧不足さえも懸念されています。

また、台湾有事や隣国によるミサイル発射等、市民生活を脅かす状況が続いています。

ウクライナのニュースや映像に触れる度に、戦争に対する怒りや一個人の無力感に苛まれることもあります。日々の日常を奪われながらも形を変え、生活や営みを続ける人々の力強さにも感銘を覚えます。規模の大小こそあれ、事故や災害においても同じことがいえると思います。

世界情勢、国内情勢が不安定な時にこそ、その原点に返り、地域の方々とともに共済という理念をしっかりと形にしていけることが組合の使命であると思っています。本年が皆さまにとって、より良い年となりますよう祈念いたしますとともに、引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



新潟市民共済生活協同組合
理事長

柏原 浩明

(かしはら・ひろあき)

「挑」でいく一年に

新年あけましておめでとうございます。

皆様のおかげで今年も無事に新しい年を迎えることができました。

2023年の年頭にあたり、今年は「挑」を掲げ取り組んでいきたいと思えます。

私自身、60歳を過ぎて新しく挑戦することが減ってきましたが、生き生きとした挑戦し続ける1年にしたい。

昨年も、新型コロナウイルスの新たな変異株により、多くの尊い人命が奪われ、感染の猛威は衰えることありません。

一時は、感染防止対策の徹底、ワクチン接種などによりようやく光が見え始めた中でしたが、今なお感染の抑制には至っておらず、出口の見えない閉塞感がただよっています。

今年も新型コロナウイルスへの対応はありますが、今までの既成概念を捨てて、リモートワーク、非対面の日常などの新たな生活様式への対応をチャンスとしてとらえ、挑戦し続けていくことが必要です。

職員と知恵を出し合い、組合員とつながれるような活動に取り組み、将来への継続と発展に挑んでまいります。

今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様とご家族が健康であること、そして実り多き一年になりますことを祈念して、年頭の抱負とさせていただきます。



西宮市民共済生活協同組合
常務理事兼事務局長

坂本 健治

(さかもと・けんじ)

脱コロナ

新年あけましておめでとうございます。

海外での軍事紛争の影響で世界の物流が滞り、世界的なインフレが発端となり、円安が進行したようです。食品をはじめエネルギーなども輸入に頼らざるを得ないわが国ですから、輸入物価が上昇することにより、国内の物価が高騰しました。

そのような中、W i t h コロナによる経済活動の回復を期待しているものの、まだまだ安心できる生活には程遠い感じがしています。

暗い話題ばかりですが、世界的なイベントのキャンセル・ワールドカップでは、日本チームの活躍に一喜一憂したことは明るい兆しだったかもしれません。

私ども西宮市民共済生活協同組合では、感染拡大に配慮したうえで、イベント開催や地域の各種イベントに積極的に参加することにより、「顔の見える市民共済」としての存在感を示し、組合員の暮らしに寄り添ってききました。

今年「W i t h コロナ」もいいですが、「脱コロナ」で組合員の気持ちも少しも明るくなるように職員一同頑張っていますので、今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



兵庫労働共済生活協同組合
専務理事

道上 昌一

(みちうえ・しょういち)

「新しいたすけあい」の実現に向けて

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては新たな年をご家族ともども健やかに迎えのことと心よりお喜び申し上げます。昨年新型コロナウイルスの拡大が止まず、また、昨年3月の福島県沖地震など災害も多発し、被災・罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、私どもこくみん共済C O O Pでは2022年度から新たな中期経営政策を策定しました。多様性と包摂性、S D G sの観点から今後4年間で「組合員・生活者への寄り添い」や「業務と経営の最適化・高度化」などを実現し、デジタル技術とDXを戦略的に活用・展開しながら「新しいたすけあい」を創造・実践してまいります。また、協同組合らしい社会的な取り組みとして、「子供の健全育成」や「たすけあい文化の醸成」、防災・減災の啓発活動や情報発信など、社会課題の解決に向けて、引き続き取り組んでまいります。

「変わる勇氣」と「変える勇氣」をもって挑戦・進化し、私たちの理念である「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」の実現に向けて邁進してまいりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新年特集

当金庫は第8次中期経営計画の最終年を迎える今年においても、オンラインを用いた改革対応も行い、厳しさを感じている組合員に素早く対応できる金融機関として、ろうきんの役割を發揮してまいります。引き続きご支援・ご協力を賜ります様お願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

抜商品検討も進めています。

また、より便利にろうきんを利用していただけのように、スマホのアプリでは普通預金口座の当日開設を可能とする「口座開設機能」の追加、「ローンWeb受付システム」の春からの利用開始に向け取扱商品検討も進めています。

この様な状況下、家計に厳しさを感じられている組合員も多くなってきたりおられる事から、少しでも可処分所得が迅速に増やせる様、ろうきんでは『生活応援運動2022』に取り組んでいます。

加えて、ご利用者拡大を進めている「WEB仮申込み」を、より知っていただくため『生活応援みんなにエールキャンペーン』を展開しています。

また、より便利にろうきんを利用していただけのように、スマホのアプリでは普通預金口座の当日開設を可能とする「口座開設機能」の追加、「ローンWeb受付システム」の春からの利用開始に向け取扱商品検討も進めています。

素早い対応で組合員のみならず、ろうきんの役割を發揮してまいります



近畿労働金庫兵庫地区本部
本部長

清宮 豊
(せいみや・ゆたか)

第2回 医療生協部会《オンライン活動交流会》開催

2022年11月8日 「コロナ禍における組合員活動の工夫交流会～オンラインも活用した実践～」と題し、医療生協部会《オンライン活動交流会》を実施しました。会員生協の地域活動担当者も含め通常の部会の拡大版として開催し7生協計24人が参加。黒岩勝博座長（姫路医療生協専務理事）の進行で、各生協における組合員活動方針・特徴と実際の活動について、また、この間手探りで進めてきたオンラインを活用した実践で工夫をしたことなどを順に発表し共有、活発な質疑応答や意見交換が出されました。

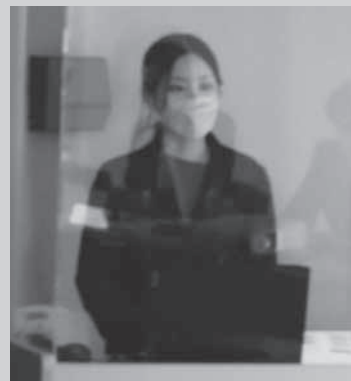
各生協での「生協マルシェ」の再開や開催地域の拡大、班会やスマホ学習会の開催、有償ボランティアの取り組みや担い手増やしなど、対面での組合員活動の工夫やサテライト会場を配置して組合員が参加しやすい環境づくりをしたハイブリッド形式のイベント開催など、さまざまな事例発表から活動方法を学び合う時間となりました。



第2回共済生協部会(学習会) 開催

2022年11月17日兵庫県民会館で共済生協部会学習会を開催しました。テーマは「保険会社からみたコープ共済」。冒頭、各生協のコロナの影響による共済金お支払いの推移について、情報共有をしました。続く学習会では参加者が受講後に講師となり自生協の職員向けに研修を実施出来る内容を解説いただき、コープ共済の「商品」と「推進」の特徴を再確認しました。

学生総合共済から新社会人コース(こどもから大人へ)がコープ共済の強みであること、推進の場面で組合員情報を活用する際の組合員の安心度合いは生協の強みであることや、保険会社の考える損害率についてポイントを解説いただきました。共済の相互扶助の仕組みへの関心の高まりを感じる大変有意義な研修となりました。



〈講師〉日本コープ共済生活協同組合連合会 教育学習活動教育研修グループ 佐藤 由季さま



第2回大学生協部会 開催

2022年11月25日、県民会館にて大学生協部会を開催しました。

コロナ禍における各生協の業績、活動報告や、対面授業が再開されたものの登校率が低いこと、食堂の利用回復が鈍く、更に2023年1月からのシステム変更による経費増など、剰余が出にくい状況であることが各生協から報告されました。

兵庫JCCと大学生協、兵庫県、HUSSOの連携による学生への食支援についても、今年度は約11,500食が提供されたこと、協同組合の紹介動画やエシカル消費のポスターを作成し啓発につなげたことなどの報告がありました。(8大学生協・1高専生協で10/31月～4(金実施)。

その後、オブザーバーとして出席の兵庫県県民生活部生活安全課消費政策班 兼田翔一郎主査から、「くらしのヤングクリエイター」活動認定者の推薦についてや、スマートフォンの消費者トラブル回避シミュレーションゲームについての説明があり、学生への消費者教育の重要性を認識し、活発な意見交換の時間を持ちました。



「消費者トラブル回避シミュレーションゲーム公開中」
※p19参照

2022年度 兵庫JCC 「協同組合研究・交流会」を開催

■日時：2022年11月29日(火) 9:00~16:30

■参加者：生協・農協・漁協・森林組合から役職員28名



温度、湿度、CO₂等をセンサーで常時観測



参加者の質問に答える研修生(右)



(株)アグリヘルシーファーム 外観

雨天の中 JR 神戸駅を出発し、2つの農協の取り組み現場を訪問しました。バスの中では JA 兵庫中央会 教育部 芦田次長より JA 組織の事業の目的や役割、食を支える兵庫県の JA の取り組みについて説明がありました。

① JA 丹波ひかみ・JA 出資の農業法人 「(株)アグリサポートたんば」

JA 丹波ひかみ 営農経済部の岸本次長から、JA と JA 出資農業法人が実施する農家支援の取り組みや、地域と連携した特産品の PR 戦略(丹波大納言小豆ぜんざいフェア)について説明を受けました。県、市、商工会議所、観光協会、JA で構成された「丹波大納言ブランド戦略会議」の推進によりブランド価値の向上を目指しているお話をうかがい、(株)アグリサポートたんばが新たに始めた最新のイチゴ栽培施設での新規就農研修生の受け入れと独立就農支援、農福連携の取り組みとして障がい者の雇用といった実績を重ねられていることを学びました。その後、JA 丹波ひかみ「とれたて野菜直売所」を見学しました。

② JA 丹波ささやま 組合員農家が営む 「(株)アグリヘルシーファーム」

午後からは JA 丹波ささやまの理事で JA 青壮年部でも活躍されている「(株)アグリヘルシーファーム」の原代表取締役を訪ね、株式会社に至った経緯と現在の事業内容や特徴、特別栽培米の生産と販売、株式会社「兵庫大地の会」との連携や地元 JA との関わり方などについて説明を受けました。

その後、JA 丹波ささやま農産物直売所「味土里館」を見学し、今年度の「協同組合研究・交流会」を終了しました。参加者は、兵庫県丹波地方の農産物の多様性ととも、地元や他団体と関係を作りながら農業の維持振興を探ることの重要性を学びました。また、交流を通して協同組合間の親睦が深まったことも実感できた1日でした。

「保健・医療・福祉研究会(拡大版)」講演・学習会を開催

「保健・医療・福祉研究会」は、長寿社会が進むなか、医療・福祉のあり方や生協が果たすべき役割について考えていこうと1991年に設置、医療生協や購買生協の担当者で構成された研究会です。

生協間の情報共有や研究テーマを決めて活動しています。今年度は昨年までの「地域包括ケアシステム」を具体的に進めていくために私達に何が出来るのかを模索しています。

2022年12月8日に開催された保健・医療・福祉研究会(拡大版)には7生協11人が参加し、認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 中村順子理事長から「安心して暮らせるコミュニティづくり」と題してお話を伺いました。

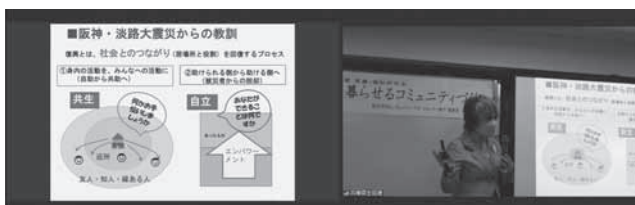
少子化による急速な人口減少と高齢者人口の最大化が社会保障制度に大きな影響を与えること、生協として地域包括ケアをどうとらえるかは、生協の強み(事業と活動を持つこと)を活かすということ、また「より狭い地域でより近い仲間と、より小さな問題をより深く考える」ことが大きな問題の解決につながるのだから、生協の仕組みをうまく使って、不安でなく安心ベースな関係性を作り、地域包括ケアを作り上げていきましょう、と話されました。



ハイブリッド形式で開催

講演を聴いて、参加者から「これが誰一人取り残さない社会なのだと実感した」「本当に隅々の人にまで情報を伝えるためにはどうしたらいいのか考えることが出来た」など、様々な感想や質問がありました。

次回の研究会では、今回も含めての気づきや疑問を共有し、次年度の計画に活かせるよう取り組みを進めます。



認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 中村順子理事長

兵庫県生協連「初級経理学校」受講者募集

1. 日 時 2023年2月17日(金) 13:30~16:30
2. 実施方法 オンライン (Zoom)
3. 内 容

決算関係書類の見方を理解し、経営分析の手法について学びます。ケーススタディでは決算関係書類の事例や自生協・会社の数値をもとに実際に各種経営指標を算定し、経営状況を分析する演習を行います。※過去に受講された方も復習を兼ねて受講をおすすめします。

経営分析の基礎

- ①決算関係書類の見方
- ②経営分析の目的と考え方
- ③収益力を分析する
- ④安全性を分析する
- ⑤生産性を分析する
- ⑥ケーススタディ

4. 対 象 会員生協・団体(関連会社含む)の役職員
5. 講 師 日本生活協同組合連合会 管理本部 経理部 土屋 里奈氏
定 員 20人(申込みが10人に満たなかった場合、中止になる可能性があります。)
6. 受 講 料 無料
7. 申込締め切り 1月30日(月)
8. 申し込み・問い合わせ

兵庫県生活協同組合連合会 TEL 078-391-8634まで

第2回災害対策委員会 開催

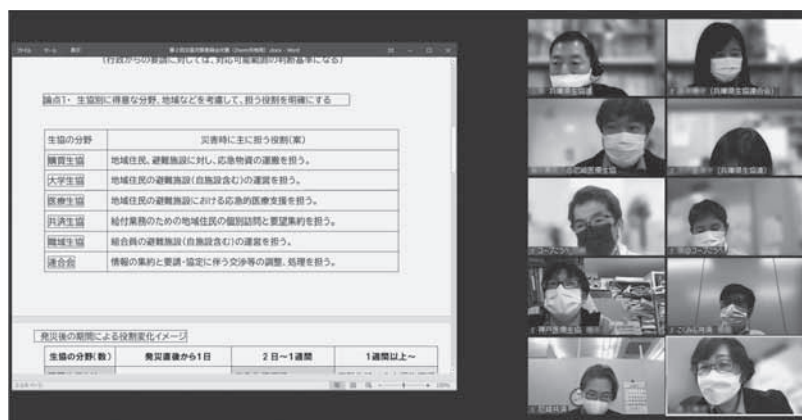
2022年12月9日 第2回兵庫県生協連災害対策委員会をオンラインで開催しました。今回は災害発生時の生協分野別の支援方針の検討や緊急連絡網と連絡内容およびその手段と手順の確認を行いました。

また、兵庫県生協連として積み立てている「防災・減災活動積立金」について、その目標額や運用方法について意見集約をしました。

まず、災害時に分野別の生協の担うべき役割と課題を明確にしていくことで、被災者・被災地支援に貢献できる連携の取り方を考え、計画や訓練に反映させていくことを目的として、生協連及び各生協の災害にあたっての被災地支援方針を論議しました。

次に、災害発災時の連絡網・連絡内容等の確認をしました。連絡手段とその使用条件や頻度、発災時の主な連絡事項などについても確認しました。

最後に、防災・減災活動積立金の目標額と拠出の運用方法について意見交換をしました。改めて、発災時の効果的な連携の必要性や、積立金の活用課題などの気づきがある委員会となりました。



2022年度 兵庫県生協連 第4回理事会報告

【開催日時】 2022年12月5日 13:55～15:35

【開催会場】 兵庫県民会館 7階「鶴」

【出席者】 岩山会長理事、末松副会長理事、江見専務理事、
若生、中野、小谷、坂本、森本、菅原、道上（以上、理事）
瀬井、中川、柏原（以上、監事）

● 議決事項 ●

1. 理事会規則の改正（案）について

● 協議事項 ●

1. 新規約（案）の制定について

● 報告事項 ●

1. 分野別生協・団体（出席理事、監事）からの状況報告について
2. 2022年度上期活動報告・収支状況報告
3. 2022年度上期監事監査実施報告
4. 2023年新春トップセミナー・賀詞交換会について
5. ひょうごまるごと健康チャレンジ進捗報告
6. その他 兵協連行事・諸活動報告（10/4～12/5分）
7. 2022年12月～兵協連主要行事スケジュール

協同組合のかけ橋

JF

JF 森・仮屋

～豊かな海へ“かいぼり” を実施～

JF 森・JF 仮屋の漁業者 約50人が
かいぼり作業に汗を流す

JF 森（森 吉秀 代表理事組合長）と JF 仮屋（岡田 光司 代表理事組合長）は、平成20年度から毎年、近くのため池での“かいぼり”作業を継続して行っています。今年は10月11日(火)、12日(水)の2日間で、淡路市釜口の「地藏堂」下池で行われ、JF 森・JF 仮屋の漁業者約50名が参加しました。

1日目は、底から肩の高さまで溜まったため池のヘドロを取り除く作業だけで1日が終わりました。水を抜く斜樋、底樋ともにヘドロが詰まっており、ため池にヘドロが溜まってしまっている状態でした。ホースの放水や、木の棒でかき回すなどして、固形状態のヘドロを柔らかくし、徐々にため池からヘドロを抜いていき、1日かけて、やっとかいぼりができる状態にしました。

2日目は、ため池の水を海へ送り出す水門が石や砂利で塞がり、水が抜けない想定外の事態が発生し、ショベルカーで掘り起こすなどして水門を開ける作業から始まりました。無事に水が抜かれた後は、漁業者は泥まみれになりながらホースの放水とともにシャベルなどでため池の泥を掘り返し、窒素やリンを含む腐葉土を海へ放流しました。

この“かいぼり”は、JF 森・JF 仮屋が先駆けとなって行われ、淡路島内に留まらず、播磨地区にも広がりを見せており、豊かな海を取り戻す運動として取り組まれています。



かいぼりをする漁業者

JA

JA 兵庫南

60年以上続く 「清水いちご」の伝統を守る

明石市魚住町清水地区で栽培される「清水いちご」は、ほ場で完熟させてから収穫し、一番おいしいタイミングで消費者に届けるため、遠方への出荷はできず、JAの直売所を中心に出荷されることから「幻のイチゴ」と呼ばれています。

清水いちご生産者5人で構成される清水いちご出荷組合の組合長を務める橋本竜介さんは、現在2万5千株のイチゴを栽培し、同JA直売所に出荷しています。

橋本さんは、土耕栽培と呼ばれる伝統的な方法で生産しており、「土耕栽培は、作業姿勢が低く、労力が大きい。気象条件にも左右されやすく管理が難しい。しかし、土から豊富な栄養分を吸収するため、甘味が深いイチゴが生産できる」と話します。

JA兵庫南明石播磨営農経済センターの平川冬木さんは、肥料会社と協力し、イチゴ栽培に必要な栄養素を土壌分析によって調査し、適切な肥料の提案を行っています。

また、平川さんはイチゴ苗根元の花芽形成を顕微鏡で確認する花芽検鏡を行い、花芽の分化の状態を確認して、適切な定植・収穫時期を判断し、収穫量を確保できるよう支援します。

今後も、JA兵庫南は清水いちごの伝統とブランドを守り、「おいしい」といわれるイチゴを提供し続けるため、土壌分析や花芽検鏡等に取り組み、適切な営農指導を行います。



清水いちごの生育状況について話す橋本さん（左）と平川さん



消費者トラブル回避シミュレーションゲーム **公開中!**

18歳になったら 成人してた件

令和4年4月から成年年齢が18歳に引き下げられました。成人になることで、これまで保護者の同意がなかった契約が自分の意思でできる一方、「未成年者取消権」の行使ができなくなるため、さまざまな消費者トラブルに巻き込まれる恐れがあります。

そうした高校生・大学生を中心とした若い世代に向けて、消費者トラブル防止の啓発・注意喚起の一環として、消費者トラブル回避シミュレーションゲーム「18歳になったら成人してた件」を制作し公開中です。

《トラブル回避して、見極め力を身につけろ!》

主人公は成人を迎えたばかりの18歳の田真玲 爽(だまされ・そう)と田真玲 瑠奈(だまされ・るな)兄妹。主人公役には、若年層に人気のアニメやゲームなどで人気の声優を起用しています。

ゲームでは若者に多い消費者トラブルの「マルチ商法」「エステ体験」「情報商材」「お試し購入」「くらしのレスキューサービス」「あやしいバイトサイト」の6事例を設定。日常生活でだまされそうになるシーンに主人公が直面、プレイヤーの選択でストーリーが分岐するシミュレーションゲーム。

正しい選択で消費者トラブルを回避し、トラブルに巻き込まれないための見極め力を身につけましょう!

《「18歳になったら成人してた件」ゲームはこちらから》

https://web.pref.hyogo.lg.jp/syouhi_lp/



※人気声優による音源が聞けるのは、令和5年3月まで。

適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット

ヨッシーの窓

みなさま、あけましておめでとうございます。適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネットの吉江直記です。

「1月号」ですね。お正月はいかがお過ごしだったでしょうか。皆様と、また1月号でお会いできて、本当によかったです。本年もどうぞよろしく願い致します。

さて、消費者契約法の「好意の感情を不当に利用」して契約した場合の契約取消し、について、続けたいと思います。こちらの要件に「勧誘を行う者に対して恋愛感情その他の好意の感情を抱き」かつ「当該勧誘を行う者も当該消費者に対して同様の感情を抱いているものと誤信していることを知りながら」という部分があります。この要件の難しいところは、契約を取消したい自分は好意の感情があったと言っても、相手も好意の感情に気付いていて、さらに、それを利用して契約させたという部分にあります。

私も、日々、様々な勧誘を受けます。ついつい、異性の営業担当者のうまい営業トークにのせられ、話を聞いてしまうこともあります。こんなことを文字にすることも、恥ずかしいと思ってしまうのに、もし、契約を取消したい場合「営業担当者に恋愛感情があった」と言うことになってしまいます。なんだか、愛の告白ですよ。とはいえ、恋愛感情のような繊細な気持ちを利用して契約させるのは、よくないです。このような取消権があることも知っておきたいところです。

(ひょうご消費者ネット 理事 司法書士 吉江直記)



ひょうご消費者ネット
連絡先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通五丁目7番11号兵庫県母子会館2階C
TEL: 078-361-7201 E-mail: office@hyogo-c-net.com

MOVE

自然災害で被災した住まいの再建に備えて一兵庫県が実施する安心の制度一

兵庫県住宅再建共済制度 【フェニックス共済】



フェニックス
サポーター
はばタン

<p>県内に住宅（戸建て・マンションなど）をお持ちの方に</p> <p>住宅再建共済</p> <p>年額5,000円で 再建・補修時等に 最大600万円給付</p> <p>※ 半壊以上（損害割合20%以上）</p>	<p>住宅再建共済にご加入の方に</p> <p>準半壊特約</p> <p>年額500円で 補修時等に 最大25万円給付</p> <p>※ 損害割合10%以上20%未満</p>	<p>県内の住宅にお住まいの方に</p> <p>家財再建共済</p> <p>単独加入 年額1,500円で 住宅とセット加入の場合 年額1,000円で 購入・修復時に 最大50万円給付</p> <p>※ 床上浸水又は半壊以上</p>	<p>あわせて備えて もっと安心!</p> <p>フェニックス共済 + その他の共済・地震保険</p>
---	---	---	---

※住宅の被害認定（損害割合）は、住宅の所在する市町が発行する「リ災証明書」によります。

フェニックス共済は単独でも加入できますが、他の共済や地震保険とあわせて加入ができます。

お問い合わせ・お申し込みは、ホームページ または コールセンターまで!

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金



兵庫県



コールセンター (平日 9:00 ~ 17:00)
078-371-1000



フェニックス共済

検索

* 加入申込書をダウンロードできます。
* クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が可能です。

学習会のご案内

完全オンライン
(Zoom)

「成年年齢引下げ後のトラブル～相談現場からの報告～」

令和5年1月15日(日) 午前10:00~11:30

講師：大久保 育子 氏 消費生活相談員、大阪府金融広報アドバイザー

具体的にどんな事例が発生しているのか、それにどう対応していくかをお話いただきます。

【問合せ】適格消費者団体 認定NPO法人ひょうご消費者ネット 事務局

(月～金 午後1時～5時) 電話：078 (361) 7201 FAX：078 (361) 7205

編集後記

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。会員の皆さまにおかれましては、良いお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年の干支は癸卯（みずのと・う）です。「これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になる」といった縁起のよさを表している年らしいです。コロナ禍の数年間でしたが、本年一年が元気で希望に満ちた年になることを祈念しております。

今年最初の「兵協連だより」をお届けいたします。新年特集は会員生協・団体の皆さまの「2023年今年の抱負」です。ご執筆に協力いただいた皆さま、本当にありがとうございます。

皆さまと会話につながる誌面作りに努めてまいります。本年も「兵協連だより」をどうぞよろしく願っています。

(吉本)



県連行事予定

- 1月7日(土) 新春トップセミナー (県民会館 福)
- 賀詞交換会
- 1月13日(金) 兵協連 第3回 大学生協部会 (県民会館 鶴)
- 1月20日(金) 兵協連 税務・経理講習会 (オンライン)
- 1月23日(月) 兵協連 監事と代表理事懇談会 (県民会館 302)
- 1月25日(水) 兵協連 第4回 生協活動委員会 (県民会館 901)